

10月13日 例会 「アヒルと鴨のコインロッカー」

この作品を例会で選んだ理由

①ミステリーとしてよくできている！

最大の理由はこれですね。原作はもちろんのこと、映画でも上手く出来ています。何がどう上手いかは以下で詳細に……

②役者の演技が上手い！

俳優の演技が上手いわけですね。主演である瑛太、濱田岳を初めとして、それ以外のサブキャラクターもいい味を出していると思います。さすがプロですね。

③音楽が良い！

この映画で重要な役割を担うのが、ボブ・ディランの『風に吹かれて』です。ご存じの方も多いと思いますが、この曲は神曲です！是非、作品中でお楽しみください。

では、本編です。

- ・ミステリー要素（以下は全て本物の役です。）

以下にどこが伏線であったかを時系列で指摘してみます。（主なもののみ）

- ・冒頭「裏口から悲劇は起きる」by 本物の河崎
顔は見えていない。誰が発言しているかは最初分からない
- ・椎名がラジカセを探すシーン
最後の感動のオチ（？）につながる
- ・椎名「カワサキってどのカワサキ？」のシーン
ドルジ「じゃあ、河童の方だ」←即座に答えられない
- ・椎名の想像→白黒
事実→カラー
- ・顔はめ写真を撮るシーン
よく見るとトラの姿が少し映っている→本当はもう一個穴がある
- ・本屋襲撃のシーン
「広辞苑」ではなく「広辞林」。最大の伏線。ドルジは日本語が読めない

- ・琴美「ブータンには鳥葬っていうものがあるんでしょ？」のシーン
上の発言をしながらボクシングの構えをしている
動物虐待犯を見つけた際も同じようなポーズをとっている→琴美は屈しない性格
- ・コート
河崎が着ているコートとドルジが着ているコートが同じだが、山形県民は着ていない
→ドルジが河崎から譲り受けたもの

まだまだたくさんあると思いますのでドンドン意見を聞かせてください。

・謎

以下に僕が本編を見ていて矛盾を感じた点を述べたいと思います。ここでもご意見を言っていたきたいです。

①ドルジの日本語の上手さ

ドルジは2年前からひきこもり生活→なのに日本語がペラペラ
2年前は片言しか話せなかったはず→上手くなりすぎ！？
仮に努力の結果話せるようになったのだとしても何故日本語が読めないのか？
ペラペラに話せるなら日本語も読めるようになるはず！

②本屋襲撃のシーン

椎名は裏口で見張っていた→当然中の物音にも気を配っていたはず
しかし、あれだけ暴れていたにもかかわらず、気づいていない→なぜ？緊張？

③友達が椎名を避けるシーン

麗子さんが気になり、椎名が先に教科書買ってと言うシーン
帰ってきた友達がなぜか椎名を避ける→なぜ？すぐ来なかったから？めんどくさい人
とかかわっていると思ったから？

③はどうでもいいことかもしれませんが、特に①と②について意見を言って欲しいです。
また、何かほかがあれば、それも言ってもらいたいです。

テーマ

『日本人の外国人に対する偏見』

「アヒルと鴨～」は伊坂作品にはめずらしくはっきりとテーマが出ています。

序盤、椎名が麗子さんと初めて出会うシーン

椎名の同級生1 「外人ってなんかやだな」

椎名の同級生2 「何考えてるか分からないもんな」

ドルジが新歓の勧誘に話しかけられているシーン

「え、なに、外人!？」

ドルジが椎名に語りかけるシーン

ドルジ「外国人だと分かったら協力しなかつたろう？」

椎名「別に……、そんなことないよ」

ドルジ「いいや、そんなことあった」

このように随所随所で日本人の外国人に対する偏見が出ています。

かなり寛容になったとはいえ、まだまだ不十分だよ、ということを作者は伝えたかったのではないか、と思います。